

民間が公開している安全マップを用いた交通安全対策 ～カーナビデータ活用の新たな取組～

1 背景・目的

県内では、交通事故によって年間約4万人が死傷している状況であり、交通事故削減のためには更なる交通安全対策が求められている。

これまで、カーナビデータを用いて急ブレーキ多発箇所を特定し、交通事故の危険性が潜んでいる箇所の交通安全対策を実施してきた。

その結果、対策実施箇所では、人身事故が約2割、急ブレーキも約7割減少するなど大きな効果を発揮してきた。

そこで、カーナビデータ活用の新たな取組として、事故多発エリアや急ブレーキ多発地点を公開しているホンダの安全マップと連携した交通安全対策を進める。

2 事業の概要

ホンダでは、道路利用者へ潜在的な交通事故の危険箇所を安全マップで公開している。

このうち特に危険性の高い箇所に安全対策を実施することで、道路の安心安全を官民連携により確保する。

公開されている事故多発エリアや急ブレーキ多発地点のデータを活用し、モデル地区において交通安全対策を実施する。

